

第 2 部

職 業 興 味

I 調査目的

職業訓練、および職業適応に関連する重要な要因として、知能・適性をみてきた。

しかし、「すきこそものの上手なれ」ということわざもあるとおり、職業興味がいま一つの重要な要因として取りあげられねばならない。というのは、職業興味が前記の素質を素質として生かし、方向づけるものであるからである。

そこで、訓練生の職業興味の实態を明らかにしようとした。

特に、今回におけるねらいをはっきりさせるために、次のような仮説をもうけた。

職業訓練を受けるものが、その職種にふさわしい職業興味を有していなければならないこと。

つまり、現在の総訓生についていえば、第1に、興味の方向については、機械的領域に興味をしめしていることがのぞましい。

第2に、職業興味の型はじっくり考えることよりは、手足を動かすことに興味をもっているのがのぞましい。

第3に、職業興味が訓練職種にさうとうする水準であってほしい。

以上の3点が、総訓生において、どのような状態になっているか、を明らかにしようとした。

II 調査方法

上述の目的・ねらいを明らかにする手段として、藤原式職業興味テストを使用した。

その職業興味テストの構成は次のようになっている。

この藤原式職業興味検査の構成は興味の領域、興味の型、興味の水準からなっている。

職業訓練職種の特性から、訓練生に期待される三つの構成はつぎのように想定できる。

興味の領域は、对人的、自然的、機械的、実

業的、芸術的、研究的の6つの領域に分かれています。この中で、訓練生に期待される領域は機械的領域である。つまり、木材・金属のペンキニス塗りの仕事、モータなどの手入れ、大工仕事、工場の機械操作、ラジオ・テレビ修理などの仕事に関する項目をその他の領域の仕事よりも相対的に“すきである”と興味を示すことを期待するのである。

興味の型では、言語的、技能的、計算的の3つに分けている。その中で、技能的な型を期待する。つまり、実際に手や足を使って行なう、活動的な仕事に興味を示してほしい。

興味の水準では、大まかに三段階に分けられる。

第1段階：簡単な反復的な仕事に向いている段階。

第2段階：かなりの技能を要する仕事に向いている段階。

第3段階：専門的な高度の知識・技能を要する仕事に向いている段階。

そして、訓練生には、現在の訓練職種の内容からすると、第2段階が期待される。

以上が訓練生に対して、この職業興味検査の期待する基準としたのである。

調査対象は10ヶ所の総合職業訓練所の訓練生970名で、そのうちの中卒訓練生769名を中心にして結果を解析した。

なお、パーセントイル規準表は、高等学校男子用規準を用いた。

第2表 調査対象頻数

(1) 中卒訓練生

職 種 総 訓	機 械	自 動 車	木 工	板 金	溶 接	電 気	電 工	電 子	精 機	仕 上	ブ ロ ッ ク	塗 装	鋳 造	総 計
A	14	7				8								29
B	25	4	16	18	16	10								89
C	26	17	16		25	23					13			120
D	10	2		7	15	6				7		2		49
E	22 28	19	20	19				33		4				145
F	10		5			14	2							31
G	14	10	12	10	7									53
H	17			9	12	21				22		6	7	94
I	21			18		20								59
J	26	14		21	16							23		100
Total	213	73	69	102	91	102	2	33	0	33	13	31	7	769

(2) 高卒訓練生

職 種 総 訓	機 械	自 動 車	木 工	板 金	溶 接	電 気	電 工	電 子	精 機	仕 上	ブ ロ ッ ク	塗 装	鋳 造	配 管	製 図	総 計
A																
B	2	15	5	1	4	9										36
C						5										5
D	4	54		6	6	5			4	1		2		5		87
E																
F	2	9	1				3	17							24	56
G	1	3		2	1											7
H																
I						3										3
J	1	6														7
Total	10	87	6	9	11	22	3	17	4	1		2		5	24	201

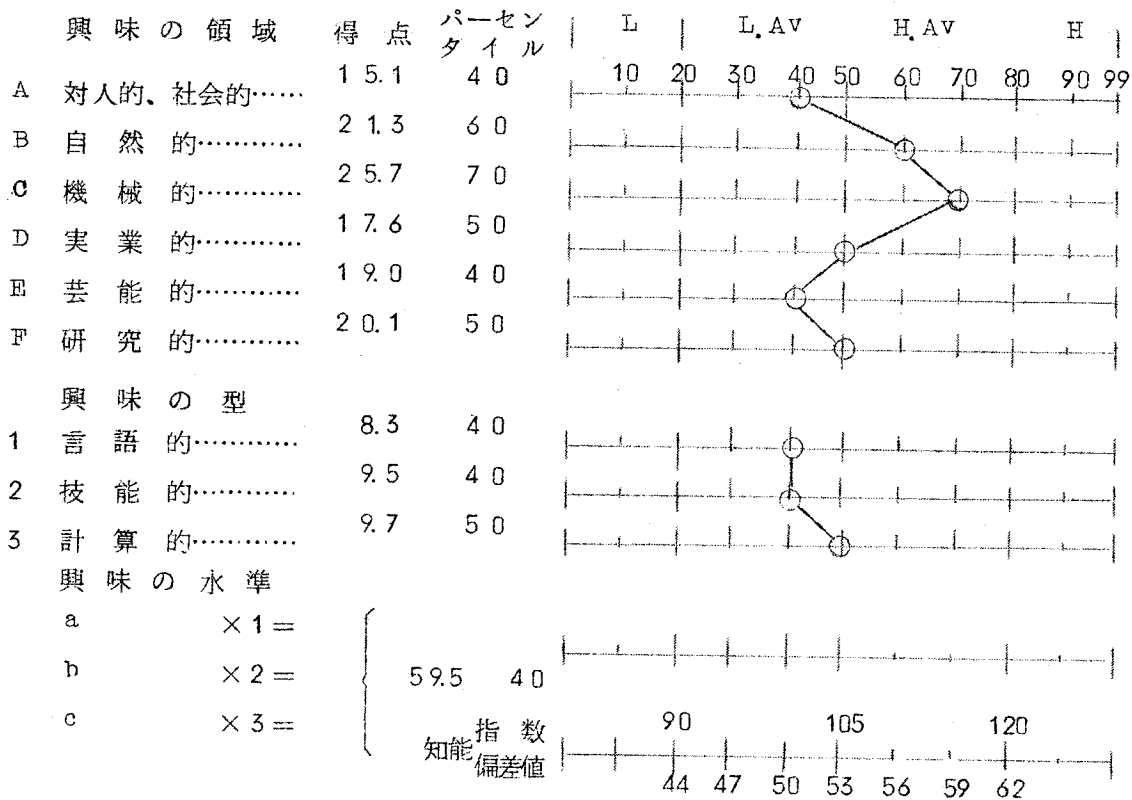
III 調査結果

1. 訓練生全般の職業興味の傾向

このような基準に対して現状の訓練生全般がどのような職業興味の傾向を示しているかを述

べる必要がある。

訓練生と同年令段階の標準尺度にあわせて中卒訓練生の全般的なプロフィールをみると、第1図のごとくである。



第1図 総訓生の全般的な職業興味プロフィール

つまり、興味の領域では、期待した通り、「機械的領域」に興味をしめし、70パーセントイルである。「興味の型はかならずしも、技能的な型」ではなく、40パーセントイルである。さらに、興味水準は40パーセントイルで、やや低い職務をのぞむ傾向である。

訓練生全体としてみた場合、興味の領域、型、興味水準では、まづまづ期待した基準通りである。

なお、訓練所別、訓練職種別に職業興味の領域、型、興味水準を調べてみたのが、第2表、第3表である。

機械的領域では、60~80パーセントイルの間に分布し、C、D、F、Gの訓練所が60パーセントイルで若干低い値を示している。

技能的型では、G訓練所だけが30パーセントイルで低い値である。

興味水準では、E、Hの両訓練所が30パーセントイルで他の訓練所よりやや低い値を示している。

また、訓練職種別にみた職業興味の傾向は第3表のごとくである。

機械的領域では、自動車整備科、電気科が70パーセントイルで高い値をしめし、機械科、木

工科、板金科、溶接科はすべて60パーセント
 である。
 である。

技能的型では機械科が50パーセントでそ
 の他の科は40パーセントである。

興味の水準は、木工科が30パーセントで
 低い値を示し、その他の科は40パーセント

以上のように、訓練所、訓練職種によって多
 少の傾向の相違はみられるが、これからの訓練
 による変容が加味されねばならないので、あえ
 て、この傾向の差は解釈しないこととする。

第2表 訓練所にみた職業興味のパ－セントイル

		A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
領 域	対人的	60	30	60	50	40	40	30	50	40	30
	自然的	60	70	70	60	70	60	80	70	40	60
	機械的	80	70	60	60	80	60	60	80	70	80
	実業的	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50
	芸術的	30	50	30	60	40	50	30	30	40	40
	研究的	50	50	50	40	50	50	50	50	50	50
型	言語的	60	40	50	50	40	40	40	40	40	40
	技能的	40	50	40	50	50	40	30	40	40	50
	計算的	40	50	50	30	50	50	50	50	40	50
水準	水準	40	40	50	40	30	40	40	40	30	40

第3表 訓練職種別にみた職業興味のパ－セン
 タイル

		機 械	自 動 車	木 工	板 金	溶 接	電 気
領 域	対人的	40	40	40	40	40	30
	自然的	60	60	80	80	70	70
	機械的	60	70	60	60	60	70
	実業的	50	50	50	50	50	50
	芸術的	30	30	40	40	30	30
	研究的	50	50	50	50	50	60
型	言語的	50	40	40	40	40	40
	技能的	50	40	40	40	40	40
	計算的	50	50	40	40	50	50
水準	水準	40	40	30	40	40	40

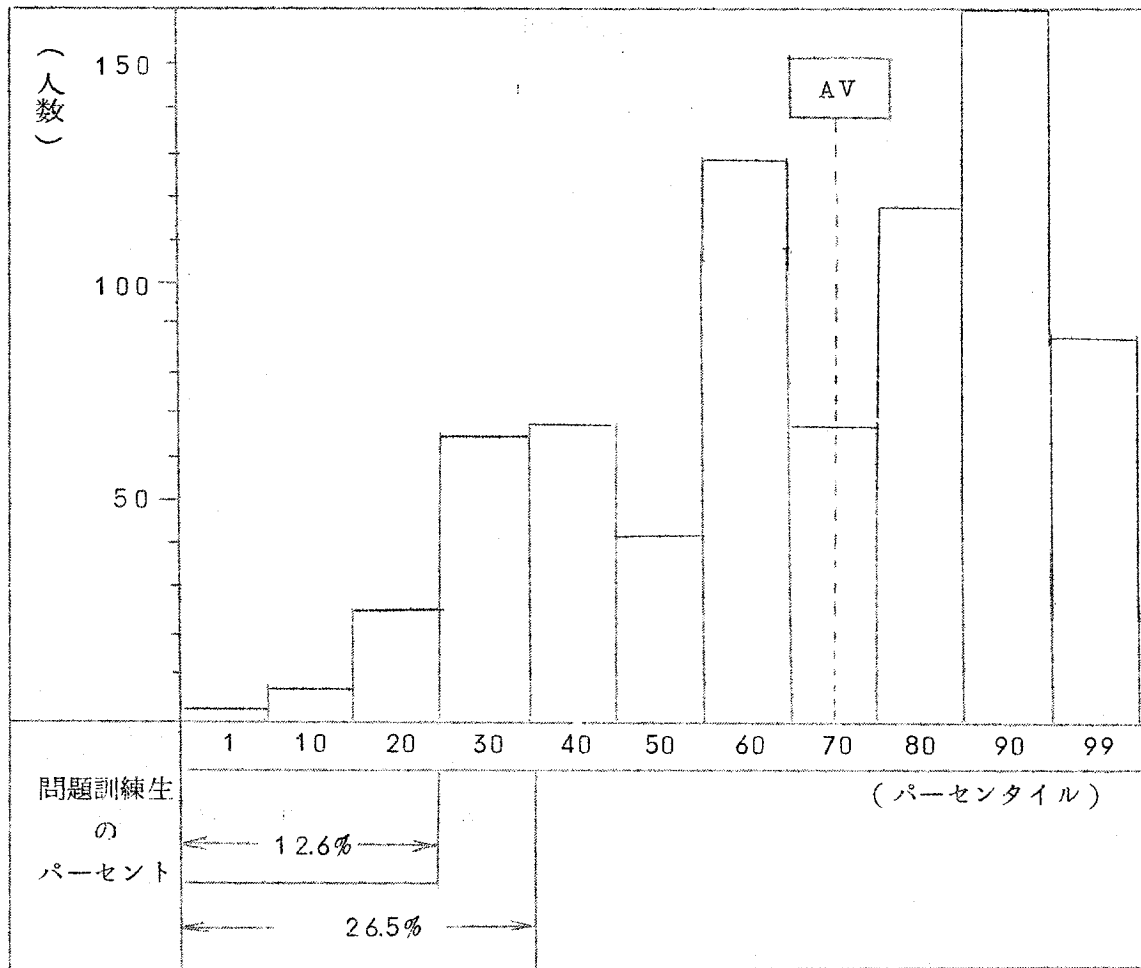
2. 職業興味からみた問題であると予測され
 る訓練生の人数

この調査の主目的であるところの、職業興味
 からみて、訓練指導上、特に注意が必要である
 と予測される訓練生がどれくらいいるかについ
 て、その実態を調べると次のごとくである。

機械的領域——つまり、機械の操作をしたり、
 きまりきった仕事をするのが、「きらいだ」
 という興味の傾向を示す訓練生は、第2図のご
 とくで、30パーセント以下でおさえた場合、
 12.6%である。訓練生全体の平均が70パーセン
 タイルであるから、50パーセント以下でお
 さえれば、26.5%が興味の領域で問題があると
 予測される。

興味の型では、活動的に働らく型、つまり

第2図 「機械的領域」での問題訓練生の人数分布



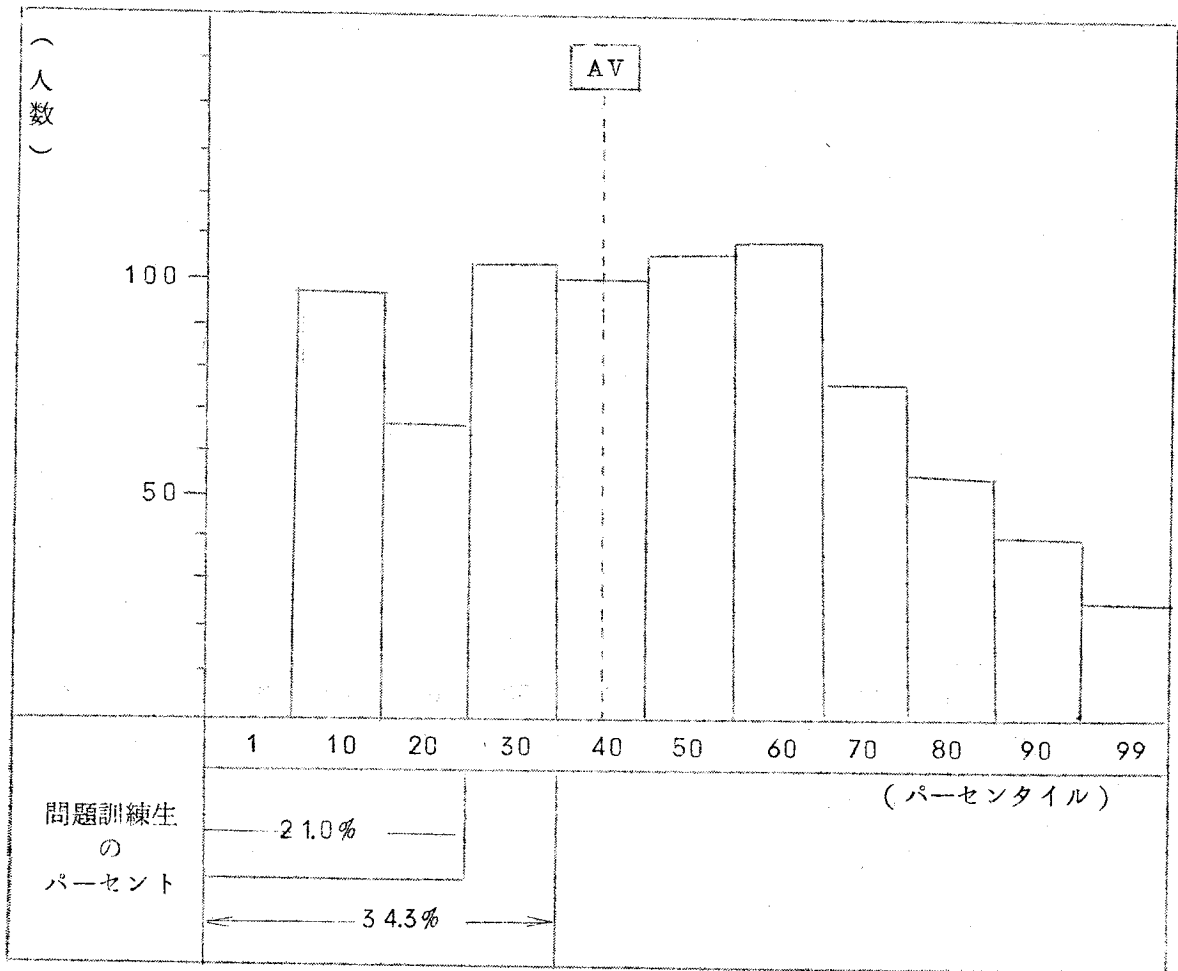
機械的領域

パーセンタイル 所	1	10	20	30	40	50	60	70	80	90	99
A					2	1	10	4	7	2	3
B	1		4	8	8	6	13	11	9	17	11
C		2	4	18	11	10	24	11	17	18	5
D			5	3	4	5	10	3	7	9	3
E			3	3	10	8	21	6	27	48	19
F		1	1	4	1	1	4	2	5	8	4
G	1	1	4	4	5	3	9	3	5	15	3
H		3	1	10	7	3	18	6	16	16	14
I			1	5	4	5	4	5	7	15	13
J			2	8	13	0	14	14	18	18	13
	2	7	25	63	65	42	127	65	118	166	88

(12.6%)97

204
(26.5%)

第3図 “技能的領域” での問題訓練生の人数分布

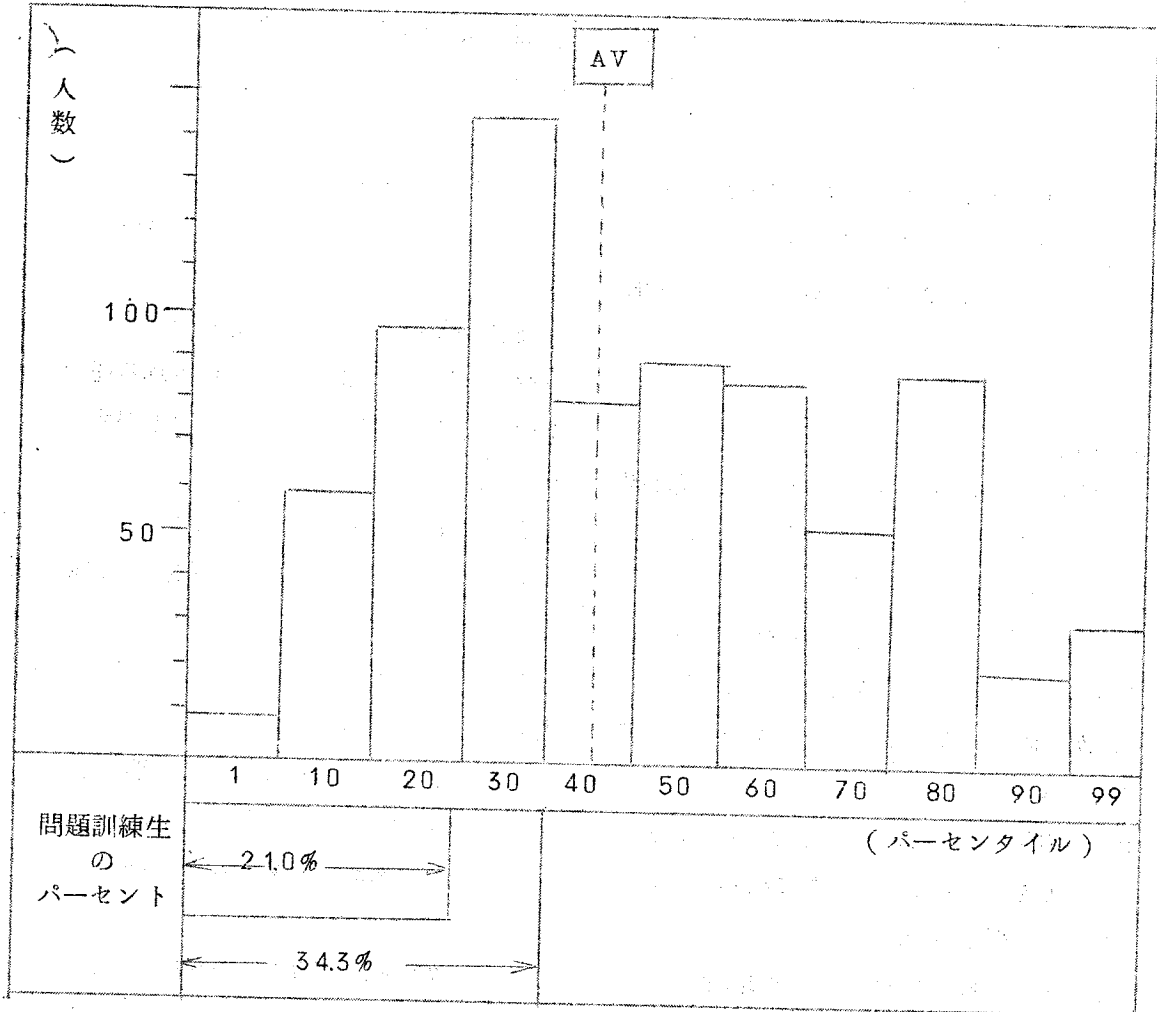


技能的な型

所 \ パーセンタイル	1	10	20	30	40	50	60	70	80	90	99
A		1	4	2	3	5	6	3	2	1	2
B		5	8	9	12	11	8	17	6	7	4
C		21	8	29	11	13	19	8	4	6	1
D		6	7	3	9	4	7	2	6	4	1
E		13	14	15	19	19	26	16	10	5	7
F		6	2	7	4	6	3	1	3		
G		9	3	6	6	11	6	4	5	1	2
H		19	6	9	14	9	12	10	9	5	1
I		2	6	9	7	8	9	6	2	6	4
J		14	8	13	15	17	11	8	7	5	2
合計		96	66	102	100	103	107	75	54	40	24

162 (21.0%) 264 (34.3%)

第3図 “技能的領域”での問題訓練生の人数分布



興味の基準

パーセンタイル \ 所別	1	10	20	30	40	50	60	70	80	90	99
A			4	5	5	1	4	1	3	1	5
B	1	8	14	15	6	16	8	8	9	4	1
C		4	15	24	14	14	12	8	21	2	6
D	1	3	1	13	8	4	7	4	3	4	1
E	5	13	14	29	10	18	16	8	18	6	8
F		3	4	5	4	5	4	1	3		3
G		10	4	12	1	8	6	4	4		4
H		6	15	17	14	10	12	7	9	1	3
I		3	6	14	7	5	9	6	7	1	1
J	1	10	22	13	12	9	9	5	14	2	3
	8	60	99	147	81	90	87	52	91	21	35

167

314
(40.8%)

“技能的な型を好まない訓練生は、20パーセント以下が21.0%、30パーセント以下でおさえれば34.3%が興味の型に問題があると言える。

興味の水準では、30パーセント以下が40.8%、20パーセント以下が21.7%で、3-1節で述べたごとく、全般的に低いところに要求水準がおかれている。

3. 結果の総括

(1) 興味の方向については、機械的領域に興味をしめす訓練生が多く、平均パーセントで70であった。

ただし、26.5%の訓練生が機械的領域で、50パーセント以下の値を示しているが、それがなにに原因しているのかを今後追跡すべきである。

(2) 職業興味の型では、技能的型で高い値を示すことを期待したが、平均で40パーセントでやや低かった。

そして、興味の欠如による学業不振が予測され、訓練指導上問題があると思われる訓練生が21.0%含まれていた。

(3) 興味の水準では、訓練職種の程度にあった傾向を示すことを期待した。

ほぼ、職種の程度に職業興味の水準を示しているといえる。

さらに、知能水準と職業興味水準との関連をみると、職業に対する要求水準が、能力よりもやや低い方に片よっておかれている傾向にある。

以上を総合してみると、職業訓練を受けるものとして、期待される。職業興味を有している者は、約75~80%であった。

逆に、職業興味において、訓練指導上、注意しなければならない、いわゆる“問題訓練生”

は約20~25%と予測される。

これが、訓練生の職業興味の全体的な実態である。

IV 今後の課題

職業興味と訓練所における職業指導について

職業興味からみて、訓練過程で学業不振など不適応をおこすであろうと予測される総訓練生が全体の約20~25%入所していることが本調査でわかった。

その訓練生については、なぜ職業興味に問題点をおこしているか、などを個別に追跡調査する必要がある。

もし、職業興味が訓練成果に関与する度合いが大きければ、

(1) 職業適性、健康、職業興味等の総合関連から、入所時における職業訓練における成功を予測し、適切な職業指導が可能になるであろう。

(2) 職業興味に問題がある訓練生には、職業訓練過程で、訓練職種にふさわしい職業興味が形成されるように、意図的な援助指導が必要となるであろう。¹⁾

なお、職業興味からみて、訓練指導上注意しなければならないと予測された訓練生については、職業適性、知能検査等の総合的な考察が続いているので、続報で報告する予定である。

1) 戸田：訓練生の職業に対する考え方